

教科 Subject	数学		科目 Course	数学A	学年 Grade	1	単位数 Credits	2
教科書 Textbook	数学A (数研出版) 数学I (数研出版)			副教材Additional Text /materials	スタンダード数学I+A (数研出版) チャート式数学I+A (数研出版)			
科目の目標 Course Objectives	数学における基本的な概念や原理・法則の理解を深め、事象を数学的に考慮し処理する能力を高め、それらを積極的に活用する態度を育てる。							
評価の基準 Assessment Standards	定期試験 = 80% 平素の学習態度 = 20%							
Term	Month	Week	学習内容&課題 Study Contents			到達目標 Students will be able to ~		
1 学期	4	1	数学I 第2章 集合と命題 1-1 集合			集合の表し方や記号を理解する		
		2	1-1 集合			集合の表し方や記号、ド・モルガンの法則を理解する		
		3	1-2 命題と条件			言葉や論理性を理解する		
	5	4	1-2 命題と条件			必要性、十分性を理解し、論理力をつける		
		5	1-3 命題と証明			逆、裏、対偶を理解する		
		6	数学A 第1章 場合の数と確率 1-1 集合の要素の個数			集合の要素の個数の数え方を理解する		
	6	7	1-2 場合の数			和の法則、積の法則を理解し、個数の処理能力をつける		
8		1-3 順列			順列の計算方法を理解する			
9		1-4 円順列 重複順列			円順列、重複順列の計算方法を理解する			
7	10	期末試験						
	11	1-5 組合せ			組み合わせの計算方法を理解する			
		12	1-5 組合せ			組み合わせの計算方法を理解する		
2 学期	9	13	1-5 組合せ			順列と組み合わせの計算方法とその違いを理解する		
		14	1-5 組合せ			順列と組み合わせの計算方法を身につける		
		15	2-6 事象と確率			確率の定義を理解する		
		16	2-7 確率の基本性質			確率の諸性質を理解し、確率を求める力をつける		
	10	17	2-7 確率の基本性質			確率の諸性質を理解し、確率を求める力をつける		
		18	2-8 独立試行の確率			独立試行を理解し、確率を求める力をつける		
		19	2-9 反復試行の確率			反復試行を理解し、確率を求める力をつける		
		20	場合の数・確率のまとめ(アクティブ・ラーニングを含める)			場合の数・確率を通して思考力を高める		
	11	21	第2章 図形の性質 1-1 三角形の辺の比 1-3 三角形の外心、内心、重心			中学の復習		
		22	1-2 チェバの定理、メネラウスの定理			定理を理解し利用できる		
		23	1-4 円に内接する四角形 1-5 円と直線			中学の復習		
		24	1-6 方べきの定理 1-7 2つの円 1-8 作図			方べきの定理を理解し利用できる 中学の復習		
12	25	2-9 直線と平面 2-10 多面体			中学の復習			
	26	期末試験						
3 学期	1	27	第3章 整数の性質 1-1 約数と倍数			倍数の判定法を理解する 素因数分解する力をつける		
		28	1-2 最大公約数と最小公倍数			最大公約数・最小公倍数を求める力をつける		
		29	1-3 整数の割り算と商・余り			余りによる分類を理解する		
	2	30	2-4 ユークリッドの互除法			ユークリッドの互除法を理解し、利用する力をつける		
		31	2-5 1次不定方程式			ユークリッドの互除法の逆算法を身につける		
		32	2-6 n進法			n進法を理解し、計算力をつける		
	3	33	2-7 小数と分数			分数を小数で表したときの性質を理解する		
		34	学年末試験					
		35						

履修者へのメッセージ Message for Students

数学Aは、個数の処理、確率、平面図形、整数の性質を中心に学ぶ。計算力もちろん必要だが、主に論理力を養う部分が大い。問題文を正確に読み取る力や、論理の流れを掴む力など、意外にも国語力も重要なポイントである。その意味で4月は数学Iにある「集合と論理」から始める。個数の処理、確率は日常の事象を扱うので取っ付きやすいし、整数の性質も一見簡単に見えるが、論理的思考力や数学的センスをかなり要するものであり、養われる部分でもある。ここで、論理的思考力や論証力をしっかりつけておくと、そのあとの高校数学の展望が明るくなる。

教科 Subject	数学科		科目 Course	数学Ⅰ	学年 Grade	1	単位数 Credits	4
教科書 Textbook	数学Ⅰ（数研出版） 数学Ⅱ（数研出版）		副教材Additional Text /materials	スタンダード数学Ⅰ+A（数研出版） チャート式数学Ⅰ+A（数研出版）				
科目の目標 Course Objectives		数学における基本的な概念や原理・法則の理解を深め、事象を数学的に考察し処理する能力を高めそれらを積極的に活用する態度を育てる。						
評価の基準 Assessment Standards		定期試験＝80％ 平素の学習態度＝20％						
Term	Month	Week	学習内容&課題 Study Contents		到達目標 Students will be able to ～			
1 学期	4	1	第1章 数と式 1-1 整式		整式の構造を理解できる			
		2	1-2 整式の加法と減法および乗法		整式の加減法・乗法、乗法公式による展開ができる			
		3	1-3 因数分解		中学の復習 たすき掛けによる因数分解ができる			
	5	4	1-3 因数分解		様々な方法による因数分解ができる			
		5	2-4 実数		実数の構造を理解できる			
	6	2-5 根号を含む式の計算		根号を含む式の計算 ができる				
	7	2-6 1次不等式		不等式の性質を理解し、1次不等式が解ける				
2 学期	9	8	第3章 2次関数 1-1 関数とグラフ		関数の意味、グラフの意味を理解する			
		9	1-2 2次関数のグラフ		平方完成ができる グラフが掛ける			
		10	期末試験					
		11	1-2 2次関数のグラフ		2次関数のグラフの移動と方程式の変化を理解する			
	12	1-2 2次関数のグラフ		一般の関数のグラフの移動と方程式の変化を理解する				
	10	13	1-3 2次関数の最大と最小		2次関数の最大と最小を求めることができる			
		14	1-4 2次関数の決定		条件に応じて2次関数を求めることができる			
15		2-5 2次方程式		2次方程式を解ける 解の判別ができる				
16		2-6 グラフと2次方程式		2次方程式の解とグラフでのx軸との共有点との関係を理解する				
17		2-7 グラフと2次不等式		2次関数のグラフを利用して、2次方程式を解くことができる				
18		2-7 グラフと2次不等式		2次不等式を解ける 応用できる				
19		第4章 図形と計量 1-1 三角比（正接・正弦・余弦）		三角比の定義を理解し、利用して問題を解くことができる				
20		1-2 三角比の相互関係		三角比の相互関係を理解し、利用することができる				
11	21	1-3 三角比の拡張		鈍角まで拡張し、条件を満たす角度及び三角比を導出できる				
	22	2-4 正弦定理 2-5 余弦定理		正弦定理、余弦定理を理解し、利用することができる				
	23	2-6 正弦定理と余弦定理の応用		正弦定理や余弦定理を用いて、辺や角を求めることができる				
	24	2-7 三角形の面積		三角比を用いて三角形の面積などを求めることができる				
12	25	三角比のまとめ		三角比の公式を総合的に理解し、利用できる				
	26	期末試験						
	1	27	数学Ⅱ 第1章 式と証明 1-1 3次式の展開と因数分解		数学Ⅰの復習			
		28	1-2 二項定理		展開式における係数を求められる			
		29	1-3 整式の割算		整式の割算ができる			
	2	30	1-4 分数式とその計算		分数式の計算ができる			
31		1-5 恒等式		恒等式の意味を理解し、係数比較により係数を求められる				
32		1-6 等式の証明		論理性を理解し、等式の証明ができる				
33		1-7 不等式の証明		不等式の性質や大小関係を理解し、不等式を証明できる				
3	34	学年末試験						
	35							

履修者へのメッセージ Message for Students

「数学的に正しいとは何か？」が最初のテーマとなる。単なる計算だけではなく論理的に考える努力が必須となる。数式から次の数式、方程式から次の方程式に展開されていくときに、「なぜ、そのようになるのか？」を噛み締めながら、前に進んでいく着意が肝要である。問題がわからないとき、定理や公式の意味に、そして、必要とあれば中学校でおこなった計算練習の意義にまでしっかり立ち戻らなければならない。何よりも自分の意志で。中学校に比べ授業の進度ははるかに早い。よって、授業の復習はその日のうちにすること。

教科 Subject	数学		科目 Course	数学B	学年 Grade	2	単位数 Credits	3
教科書 Textbook	数学B (数研出版)			副教材Additional Text /materials	スタンダード数学II+B (数研出版) チャート式数学II+B (数研出版)			
科目の目標 Course Objectives		数学における基本的な概念や原理・法則の理解を深め、事象を数学的に考慮し処理する能力を高め、それらを積極的に活用する態度を育てる。						
評価の基準 Assessment Standards		定期試験=80% 平素の学習態度=20%						
Term	Month	Week	学習内容&課題 Study Contents		到達目標 Students will be able to ~			
1 学期	4	1	第1章 平面上のベクトル 1-1 平面上のベクトル		ベクトルの意味を捉える			
		2	1-2 ベクトルの演算		ベクトルの和、差、実数倍を理解する 1次独立性を理解する			
		3	1-3 ベクトルの成分		ベクトルの成分表示を理解する			
	5	4	1-3 ベクトルの成分		ベクトルの線形結合の表現ができる			
		5	1-4 ベクトルの内積		内積の意味を理解する			
		6	1-4 ベクトルの内積		内積を利用できる			
	6	7	2-5 位置ベクトル		位置ベクトルの定義を理解し、内分点、外分点、三角形の重心			
		8	2-5 位置ベクトル		の性質の理解を深める			
		9	2-6 ベクトルと図形		1次独立性、線形結合の一意性の理解を深める			
		10	期末試験					
	7	11	2-7 ベクトル方程式		直線の方程式をベクトルで表現する力をつける			
		12	2-7 ベクトル方程式		直線の方程式をベクトルで表現する力をつける			
2 学期	9	13	第2章 空間のベクトル 1-1空間の座標		空間の位置関係を捉え、座標や距離を理解する			
		14	1-2 空間のベクトル		空間ベクトルの性質、1次独立性を理解する			
		15	1-3 ベクトルの成分		空間ベクトルの成分による演算と大きさを理解する			
		16	1-4 ベクトルの内積		空間ベクトルの内積の意味とその性質を理解する			
	10	17	1-5 位置ベクトル		空間での位置ベクトルを理解する			
		18	1-6 ベクトルと図形		直線上の点、平面上の点をベクトルで捉える			
		19	1-6 ベクトルと図形		1次独立性、線形結合の一意性の理解を深め、表現できる			
		20	1-7 座標空間における図形		図形の方程式をベクトルの方程式で表現する力をつける			
	11	21	1-7 座標空間における図形		平面ベクトルと比較しながら、線形性の理解を深める			
		22	第3章 数列 1-1 数列 1-2 等差数列とその和		数列の一般項の意味を理解する			
		23	1-2 等差数列とその和		等差数列の性質、和の求め方を理解する			
		24	1-3 等比数列とその和		等比数列の性質、和の求め方を理解する			
12	25	1-4 和の記号Σ		累乗の和の求め方、Σの使い方と性質を理解し、利用できる				
	26	期末試験						
3 学期	1	27	1-5 階差数列		階差数列の利用の方法を理解し、一般項を求められる			
		28	1-6 いろいろな数列の和		和の求め方の方法を理解し、活用できる			
		29	2-7 漸化式と数列		漸化式の意味を理解し、漸化式を解く力をつける			
	2	30	2-7 漸化式と数列		基本的な型の漸化式が解ける			
		31	2-7 漸化式と数列		様々な漸化式の解法を理解し、解ける			
		32	2-8 数学的帰納法		数学的帰納法の証明方法を理解し、証明ができる			
		33	2-8 数学的帰納法		数学的帰納法を漸化式の解法に応用できる			
	3	34	学年末試験					
		35						

履修者へのメッセージ Message for Students

数学Bでは、ベクトルと数列を学ぶ。大学レベルの一般教養としての数学の二本柱は「線形代数学」と「微分積分学」であるが、ベクトルは前者の基本になる。特にベクトルの「1次独立性」をしっかりと理解して欲しい。大学入試のどのような難問でもこの1次独立性を意識して解くものである。数列は取っ付きはいいが、実は高校数学の中で最難解と言われている。だからこそしっかりと乗り切れば、大学入試に太刀打ちできるようになる。特に漸化式は難しいがしっかりと乗り切って欲しい。ベクトルも数列もとにかく、数少ない「ポイント」さえおさえれば全く怖くない。

教科 Subject	数学		科目 Course	数学Ⅱ	学年 Grade	2	単位数 Credits	4
教科書 Textbook	数学Ⅱ（数研出版）			副教材Additional Text /materials	スタンダード数学Ⅱ+B（数研出版） チャート式数学Ⅱ+B（数研出版）			
科目の目標 Course Objectives		数学における基本的な概念や原理・法則の理解を深め、事象を数学的に考慮し処理する能力を高め、それらを積極的に活用する態度を育てる。						
評価の基準 Assessment Standards		定期試験＝80％ 平素の学習態度＝20％						
Term	Month	Week	学習内容&課題 Study Contents		到達目標 Students will be able to ~			
1 学期	4	1	第1章 式と証明 1-1 3次式の展開と因数分解 1-2 二項定理		展開式における係数を求められる			
		2	1-3 整式の割り算 1-4 分数式とその計算		整式の割り算、分数式の計算ができる			
		3	1-5 恒等式		恒等式の意味を理解し、係数比較により係数を求められる			
	5	4	2-6 等式の証明 2-7 不等式の証明		論理性を理解し、等式・不等式の証明ができる			
		5	第2章 複素数と方程式 1-1 複素数		複素数の四則計算ができる			
		6	1-2 2次方程式の解と判別式		2次方程式が解ける 解の判別ができる			
	6	7	1-3 解と係数の関係		解と係数の関係、因数分解、2数を解とする2次方程式の相互関係を理解する			
8		1-4 剰余の定理と因数定理 1-5 高次方程式		因数定理を理解し、活用できる				
9		1-5 高次方程式		高次方程式が解ける				
		10	期末試験					
7	11	11	第3章 図形と方程式 1-1直線上の点 1-3平面上の点		内分・外分の方法、距離公式を理解し活用できる			
		12	1-3 直線の方程式		直線の方程式を作れる			
2 学期	9	13	1-4 2直線の関係		直線の方程式を活用できる			
		14	2-5 円の方程式 2-6 円と直線		円の方程式を活用できる			
		15	2-7 2つの円 3-8 軌跡と方程式 3-9 不等式の表す領域		"方程式"と"幾何的な状況"の相互対応を理解できる			
		16	第4章 三角関数 1-1 一般角と弧度法 1-2 三角関数		三角関数の定義を多面的に理解し、相互関係を理解する			
	10	17	1-3 三角関数の性質 1-4 三角関数のグラフ		グラフと方程式の関係を理解する 公式を多面的に理解できる			
		18	1-5 三角関数の応用 2-6 加法定理		三角不等式が解ける 三角関数の公式を覚え、利用できる			
		19	2-7 加法定理の応用		公式を利用できる 三角方程式・不等式が解ける			
		20	2-8 三角関数の合成		公式を利用できる			
	11	21	第5章 指数関数と対数関数 1-1 指数の拡張		指数法則を理解し、累乗根を含んだ計算ができる			
		22	1-2 指数関数		指数関数のグラフや性質を理解し、利用できる			
		23	1-3 対数とその性質		対数の性質を理解し、利用できる			
		24	1-4 対数関数 1-5 常用対数		指数・対数曲線の概形を理解し、方程式・不等式に応用できる			
12	25	第6章 微分法と積分法 1-1 微分係数 1-2 導関数		微分係数、導関数の意味を理解する				
	26	期末試験						
3 学期	1	27	2-3 接線 2-4 関数の値の変化		増減を調べ、グラフの概形を描くことができる			
		28	2-4 関数の値の変化		グラフの概形を利用することができる			
		29	2-5 最大値・最小値		グラフの概形を利用することができる			
	2	30	2-6 関数のグラフと方程式・不等式		グラフの概形を利用することができる			
		31	3-7 不定積分		不定積分を求めることができる			
		32	3-8 定積分		定積分を求めることができる			
	3	33	3-9 面積		曲線で囲まれた図形の面積を求めることができる			
		34	学年末試験					
		35						

履修者へのメッセージ Message for Students

高校数学の中でも数学Ⅱは内容が広く、新しい概念も最も多い。数学Ⅰ、数学Aに続いて、この数学Ⅱの第3章までは、受験数学のいわば道具であり、直接大学入試に出題される率が高いのは、4章三角関数、5章指数対数、6章微分積分である。特に微分積分は最重要で、数学Ⅲの基礎でもあり、どの大学入試でも必ず出題される分野である。以上のことを念頭に置き、復習や演習を毎日継続すること。

教科 Subject	数学		科目 Course	数学活用	学年 Grade	2(理)	単位数 Credits	2
教科書 Textbook	数学活用 (啓林館)			副教材Additional Text /materials	スタンダード数学Ⅰ+A,Ⅱ+B (数研出版) チャート式数学Ⅰ+A,Ⅱ+B (数研出版)			
科目の目標 Course Objectives			数学ⅠAⅡBの範囲の大学入試に対応できる基礎力を固める。					
評価の基準 Assessment Standards			定期試験=80% 平素の学習態度=20%					
Term	Month	Week	学習内容&課題 Study Contents			到達目標 Students will be able to ~		
1 学期	4	1	数学Ⅰ 展開 因数分解			自力で解く力をつけ、センター試験に対応できる力を固める		
		2	因数分解					
		3	根号を含む式の計算					
	5	4	1次不等式 連立不等式・応用					
		5	絶対値を含む方程式・不等式					
		6	関数とグラフ 2次関数のグラフ 平行移動・対称移動					
	6	7	2次関数の最大と最小					
		8	2次関数の決定 2次方程式(1)(2)					
		9	グラフと2次方程式					
		10	期末試験					
	7	11	グラフと2次不等式					
		12	グラフと2次不等式					
2 学期	9	13	2次関数種々の問題			自力で解く力をつけ、センター試験に対応できる力を固める		
		14	絶対値を含む関数のグラフ					
		15	数学A 集合の要素の個数 場合の数					
		16	順列					
	10	17	円順列 組合せ(1)					
		18	組合せ(2)					
		19	事象と確率 確率の基本性質					
		20	独立な試行の確率 反復試行の確率 条件付き確率					
	11	21	ユークリッドの互除法					
		22	ユークリッドの互除法 1次不定方程式					
		23	数学Ⅱ 解と係数の関係					
		24	剰余の定理と因数定理					
12	25	高次方程式						
	26	期末試験						
3 学期	1	27	三角関数の性質 三角関数のグラフ 三角関数の応用			自力で解く力をつけ、センター試験に対応できる力を固める		
		28	三角関数の応用 加法定理 加法定理の応用					
		29	加法定理の応用 三角関数の合成					
	2	30	数学B ベクトルの成分 ベクトルの内積					
		31	位置ベクトル ベクトルと図形					
		32	ベクトルと図形 ベクトル方程式					
		33	ベクトル方程式					
	3	34	学年末試験					
		35						

履修者へのメッセージ Message for Students

数学Ⅰの全てと数学Ⅱの式と証明、複素数と方程式、図形と式までは高校数学のいわば道具。入試に直接出題されるのは主に三角関数、指数対数関数、微分積分、ベクトル、数列の5項目である。理系であれば、数学が得意科目である義務がある！ 復習、演習あるのみ！ 数学の力は演習量で決まる！この授業では、秋まではⅠA、3学期はⅡB中心で、入試に出題され易い部分や重要と思われる部分に的を絞る。

教科 Subject	数学		科目 Course	数学Ⅲ	学年 Grade	3(理)	単位数 Credits	5
教科書 Textbook	数学Ⅲ (数研出版)			副教材Additional Text /materials				
科目の目標 Course Objectives			数学における基本的な概念や原理・法則の理解を深め、事象を数学的に考慮し処理する能力を高め、それらを積極的に活用する態度を育てる。					
評価の基準 Assessment Standards			定期試験=80% 平素の学習態度=20%					
Ter m	Mon th	We ek	学習内容&課題 Study Contents			到達目標 Students will be able to ~		
1 学期	4	1	第3章 関数 1-1分数関数 1-2無理関数			分数関数、無理関数のグラフが描ける		
		2	1-3逆関数と合成関数			逆関数、合成関数を求めることができる		
		3	第4章 極限 1-1 数列の極限			極限を求めることができる		
	5	4	1-2 無限等比数列			極限を求めることができる		
		5	1-3 無限級数			級数の性質を理解する 級数を求めることができる		
		6	2-4 関数の極限			極限を求めることができる		
	6	7	2-5 関数の極限			極限を求めることができる		
8		2-5 三角関数の極限 2-6 関数の連続性			極限を求めることができる 連続性について理解する			
9		第5章 微分法 1-1 微分係数と導関数 1-2 導関数の計算			微分係数、導関数の意味を理解する			
		10	期末試験					
7	11	11	1-2 導関数の計算			微分ができる		
		12	1-2 導関数の計算			微分ができる		
2 学期	9	13	1-3 種々の関数の導関数 1-4 第n次導関数 1-5 陰関数			微分ができる		
		14	第6章 微分法の実用 1-1接線と法線 1-2 平均値の定理			方程式を作れる		
		15	1-3 関数の値の変化			グラフが描ける		
		16	1-4 関数の最大と最小			グラフを利用・活用できる		
	10	17	1-5 関数のグラフ			グラフが描ける		
		18	1-6 方程式・不等式への応用 2-7 速度と加速度 2-8 近似値			グラフを利用・活用できる		
		19	第7章 積分法 1-1 不定積分 1-2 置換積分法			不定積分を求めることができる		
	11	20	1-3 部分積分法 1-4 いろいろな関数の不定積分			不定積分を求めることができる		
		21	2-5 定積分 2-6 定積分の置換積分法			定積分を求めることができる		
		22	2-7 定積分の部分積分法 2-8 定積分の種々の問題			定積分を求めることができる		
		23	第8章 積分法の実用 1-1 面積 1-2体積			定積分を利用して種々の求積ができる		
	12	24	1-2 体積 1-3 曲線の長さ 1-4 速度と道のり			微分・積分を融合的に理解し、活用できる		
25		発展 微分方程式			微分方程式が解ける			
26		期末試験						
3 学期	1	27						
		28						
		29						
	2	30						
		31						
		32						
	3	33						
34								
		35						

履修者へのメッセージ Message for Students

数学Ⅲイコール「微分積分」と理解してよい。一般教養としての数学の二本柱は「線形代数学」と「微分積分学」であり、簡単にイメージすると、前者は真っすぐなもの、後者は曲がったものを扱う。微分積分は、自然科学の基本として深化し、実に様々な分野に応用されているものである。大学入試問題としても最頻出の分野である。数学Ⅱ、数学Bほど真新しい概念は多くはないが、計算量が多く、根気と体力が必要である。もちろん復習や演習は「毎日」やることが不可欠である。また、数学Ⅲは理系であれば受験以前に大学進学後に絶対必要な分野である。

教科 Subject	数学		科目 Course	数学活用(文理)	学年 Grade	3	単位数 Credits	2
教科書 Textbook	数学活用(啓林館) 数学Ⅰ(数研出版) 数学Ⅱ(数研出版)			副教材Additional Text /materials	スタンダード数学I+A			
科目の目標 Course Objectives			数学ⅠAの範囲のセンター試験に対応できる力をつける。問題集のポイントチェック中心。					
評価の基準 Assessment Standards			定期試験=80% 平素の学習態度=20%					
Term	Month	Week	学習内容&課題 Study Contents			到達目標 Students will be able to ~		
1 学期	4	1	数学Ⅱ 第6章 微分法と積分法 2-8 定積分			定積分を求めることができる		
		2	2-9 面積			定積分を利用して面積を求めることができる		
		3	数学Ⅰ 第4章 データの分析 1-1 データの代表値			データの代表値を理解する		
	5	4	1-2 データの散らばりと四分位範囲			四分位範囲、箱ひげ図などを理解する		
		5	1-3 分散と標準偏差 1-4 データの相関			分散と標準偏差、データの相関関係を理解し利用できる		
		6	スタンダード問題集 数と式					
	6	7	数と式					
8		数と式						
9		2次関数						
7	10	期末試験						
	11	2次関数						
	12	2次関数			自力で解く力をつけ、センター試験に対応できる力とさせる			
2 学期	9	13	2次関数					
		14	2次関数					
		15	図形と計量					
		16	図形と計量					
	10	17	図形と計量					
		18	場合の数と確率					
		19	場合の数と確率					
		20	場合の数と確率			自力で解く力をつけ、センター試験に対応できる力とさせる		
	11	21	整数の性質					
		22	整数の性質					
		23	センター試験対策					
		24	センター試験対策					
12	25	センター試験対策						
	26	期末試験			センター試験の過去問題、想定問題などを解くことができる			
3 学期	1	27						
		28						
		29						
	2	30						
		31						
		32						
	3	33						
		34						
		35						

履修者へのメッセージ Message for Students

入試に直接出題される問題の傾向をよく調べ、解法パターンを掴み実践すること。復習、反復演習あるのみ！数学の力は演習量で決まる！

教科 Subject	数学		科目 Course	数学活用(理+文選)	学年 Grade	3	単位数 Credits	3
教科書 Textbook	数学活用(啓林館)			副教材Additional Text /materials	シニア数学演習Ⅰ・Ⅱ・A・B			
科目の目標 Course Objectives			数学ⅠAⅡBの範囲のセンター試験に対応できる力をつける。問題集のA問題中心。					
評価の基準 Assessment Standards			定期試験=80% 平素の学習態度=20%					
Term	Month	Week	学習内容&課題 Study Contents			到達目標 Students will be able to ~		
1 学期	4	1	シニア問題集 1 式の計算 2 式の値			自力で解く力をつけ、センター試験に対応できる力とさせる		
		2	6 関数の最大・最小 7 2次方程式、2次不等式					
		3	8 2次関数のグラフとx軸の共有点					
	5	4	10 三角比と図形(1) 11 三角比と図形(2)					
		5	12 データの分析					
		6	13 場合の数、順列 14 組合せ					
	6	7	15 確率(1) 16 確率(2)					
		8	19 約数と倍数 20 不定方程式					
		9	21 整数の性質の種々の問題					
		10	期末試験					
	7	11	32 三角関数(1)					
		12	33 三角関数(2)					
2 学期	9	13	34 指数関数・対数関数(1) 35 指数関数・対数関数(2)			自力で解く力をつけ、センター試験に対応できる力とさせる		
		14	36 導関数と接線 37関数の増減・極値					
		15	38最大・最小(微分法) 39 方程式・不等式への応用					
		16	40 積分の計算 41 定積分で表された関数					
	10	17	42 面積 43 ベクトル					
		18	44 ベクトルと平面図形 45 ベクトルと空間図形					
		19	46 等差数列・等比数列					
		20	47 種々の数列 48 漸化式と数列					
	11	21	48 漸化式と数列					
		22	センター試験対策					
		23	センター試験対策					
		24	センター試験対策					
12	25	センター試験対策						
	26	期末試験						
3 学期	1	27				センター試験の過去問題、想定問題などを解くことができる		
		28						
		29						
	2	30						
		31						
		32						
	3	33						
		34						
		35						

履修者へのメッセージ Message for Students

入試に直接出題されるのは主に三角関数、指数対数関数、微分積分、ベクトル、数列の5項目である。復習、反復演習あるのみ！数学の力は演習量で決まる！